

生化学検査項目

TP (総蛋白)	血液中の7~8%に存在し、100種類以上の蛋白成分で構成された総量です。栄養状態や肝臓機能の指標となります。 低値：ネフローゼ症候群、重症肝障害など 高値：多発性骨髄腫、自己免疫性肝炎など
BUN	蛋白代謝の最終産物（老廃物）で肝臓において合成されます。脱水症状、腎機能低下などで上昇します。 低値：肝不全、低蛋白症、妊娠など 高値：腎不全、脱水、消化管出血など
Cr	筋肉収縮のエネルギー源の最終産物（老廃物）で生体にとっては不要成分です。腎機能の低下、脱水などで上昇します。 低値：妊娠など 高値：腎不全など
Na K Cl	各々の項目は代表する電解質（ミネラル）成分のひとつです。内分泌、水分代謝、酸塩基平衡異常などを疑うときに検査します。 低値：Na 慢性腎不全、ネフローゼ症候群、 K 嘔吐、下痢 Cl 嘔吐など 高値：Na 脱水、尿崩症、 K 腎不全、 Cl 脱水など
Ca P	内分泌、骨代謝障害など疑われる場合や各種の腎疾患、副甲状腺機能亢進症などが疑われる場合の指標となります。 低値：Ca 低ALB血症、慢性腎不全、 P 副甲状腺機能亢進症、ビタミンD欠乏 高値：Ca 副甲状腺機能亢進症、 P 腎不全、副甲状腺機能低下症など
AST	主に心臓、肝、骨格筋に分布している酵素で、障害により高値を示します。 高値：ウイルス性急性肝炎、劇症肝炎
ALT	主に肝、腎臓に分布している酵素で、特に肝臓の障害に高い特異性を示します。 高値：ウイルス性急性肝炎、劇症肝炎など
LD	身体のほとんどの細胞に分布し、細胞障害の指標となります。 高値：心筋梗塞、急性肝炎、悪性腫瘍など
ALP	アルカリ性の加水分解酵素で、肝、胆道系、骨形成疾患などにおいて高値を示します。 高値：閉塞性横断、肝内胆汁うっ滞、転移性骨腫瘍
γ-GTP	加水分解酵素の一種で肝、腎、膵臓に分布し、アルコール性肝障害、胆道閉塞などで上昇を示します。 高値：薬物性肝障害、肝内胆汁うっ滞など
CK	転移酵素の一種でエネルギー代謝に関与し、心臓、脳、骨格筋などの障害で高値を示します。 低値：甲状腺機能亢進症など 高値：急性心筋梗塞、多発性筋炎、脳外傷など
AMY	加水分解酵素の一種で主に唾腺、膵臓に存在し、耳下腺炎、膵障害などで高値を示します。 高値：急性膵炎、急性耳下腺炎、腸閉塞など
T-Bil	主に黄疸の有無を確認するための検査です。肝機能障害、胆道系疾患などで高値を示します。 高値：急性肝炎、肝硬変、肝内胆汁うっ滞、劇症肝炎など
NH3	アンモニアの上昇は、主に肝臓でのアンモニア代謝障害、門脈-体循環血流シャントが病因となります。 高値：劇症肝炎、非代償性肝硬変、低酸素血症など
トロポニンT	心筋特異性の高い検査で心筋壊死に反映し増加します。急性心筋梗塞後、3~5時間から上昇し、約2週間後まで高値が続きます。 偽陽性：強溶血、強乳び、腎疾患など
テオフィリン	気管支拡張薬の一つで、投与後5時間で最高血中濃度に達します。 有効治療濃度 適応症：気管支喘息、慢性気管支炎など
ジゴキシン	結晶性の強心配糖体の一つで、投与後1.6時間で最高血中濃度に達します。 適応症：うっ血性心不全、肺性心など